

会議記録（要旨）

委員会の名称	第5回 広陵町の公民館建替及び文化芸術の振興のあり方検討委員会
開催日時	令和3年1月17日（日） 10:00～12:00
開催場所	広陵町総合保健福祉会館（さわやかホール）4階大会議室
出席委員の氏名 及び人数	中川幾郎委員長、大藪慎二副委員長 生嶋純子委員、石井保雄委員、良佳信委員、坂口忠雄委員、 寺井保委員、宿久和美委員、松井宏之委員 計9名
欠席委員の 氏名及び人数	竹井三男委員、松本茂章委員 計2名
出席職員 の職・氏名又は人数	<事務局> 町長部局 企画部長 奥田育裕、企画政策課長 尾崎充康、同課長補佐 芝賢明、 芦原徹 <事務局> 教育委員会事務局 教育委員会事務局長 池端徳隆、生涯学習スポーツ課長 増田晴彦、同 課長補佐 池島清隆 <運営支援> 特定非営利活動法人 NPO 政策研究所 直田春夫、田中逸郎、谷内博史
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	-
傍聴人の人数	5人
議題 又は 協議事項	1 開会 2 委員長あいさつ 3 広陵町の文化施設（公民館等）のあり方について 4 広陵町の文化芸術振興について 5 まとめ 6 閉会
会議の記録（要旨）	
議事／発言者等	発言内容等
事務局	○開会 ・ただいまから、第5回広陵町の公民館建替及び文化芸術の振興のあり方検討委員会を開会します。 ・竹井委員、松本委員は所用のため欠席と伺っています。 ○資料の確認（本日配布と事前送付） ・本日配布資料 次第、協働の事例（複合施設）明石市立複合型交流拠点ウィズあかし ・事前送付資料 資料1：広陵町の文化芸術振興について、参考資料1：文化芸術の（振興の）方向イメージ、参考資料2：令和元年度中央公民館主催事業実績、参考資料3：生涯学習・公民館のあり方、

	参考資料 4：スケジュール骨格、参考資料 5：豊中市の取組事例、参考資料 6：「協働」を考えるために
2 委員長あいさつ	
中川委員長	○本年もよろしくお願ひします。 ○先日奈良県知事の意見を聴く機会がありましたが、たまたま広陵町と王寺町の自治基本条例の話が出て、「こういう動きがある事は喜ばしいことであまく進むことを期待します」という言葉をいただきました。注目されているということだと思います。
3 広陵町の文化芸術の現状と課題 4 広陵町の文化芸術振興について	
中川委員長 委員	○今日は資料が多く配られていますが、議論の参考にしていただければと思います。 ○議事に入る前に、議事の整理をお願いしたいと思います。 ○本日配布の議事次第には、広陵町の文化施設（公民館等）のあり方と広陵町の文化芸術振興の二つがあげられている。「スケジュール骨子」では、本日第 5 回委員会のテーマとして〈広陵町の文化施設（公民館等）のあり方〉となっている。これまで生涯学習のあり方や文化施設の事例を学んできて、本日の参考資料 3「生涯学習・公民館のあり方」に整理されているので、この上に立って広陵町の文化施設（公民館等）のあり方について深めていただきたい。
中川委員長	○参考資料 3 に重点を置いて議論をしてほしいというご要望です。 ○議事次第 3 広陵町の文化施設のあり方について、資料 1 にもとづいて議論するという事です。資料の説明をお願いします。
事務局	○資料 1 により説明があった。
中川委員長	○ありがとうございました。議事次第では、議題が 3 と 4 に分かれているが、資料 1 は両者に関連しているので、一括して議論したいと思ひます。まず、資料 1 についての質問を受けたいと思ひます。 ○資料 1 は、これまで出された意見や講演の内容を集約したもので、委員会の議論の見取り図となっている。資料 1 の 3 ページにある町長答弁「概ね 5 年をめどに基本方針を策定し、その後できるだけ早期の建替をめざす」に基づいて本委員会が設置されたものと理解している。したがって、本委員会のミッション（役割）としては基本方針を策定することが先決であり、基本方針が定まればどのような公民館が必要かということや、施設の内容も定まってくると理解している。これを確認しておく。資料 1 は、委員から多くの意見をいただき、基本方針を作成するための材料とすることを目指して作られたもの。 ○さきほど委員から提起のあったとりわけソフトについての議論を進めていって欲しい、そのためには参考資料 3 が有益であるとの意見ですので、この資料を踏まえて、これからの広陵町の生涯学習・公民館のあ

り方についての意見を賜りたく、順次発言をお願いします。

委員

○公民館のあり方の根本には、利用する団体・組織が第一だ。これまで育成クラブや文化協会それぞれの活動形態は年々変わってきているが、これらの団体と新規の利用者も含めて、誰かが使える施設にならなければいけない。

○誰もが使う施設ということで、災害時の避難場所やこれまで議論されてきた歴史資料館（基本設計までできた）、福祉関係施設等との総合的・複合的な公民館というものも検討していただきたい。今の段階では、方向がまとまっていないので具体的には提示できない。

委員

○公民館はできるだけ早く建替えるということが前提にあったと思っている。歴史資料館については、コンサルも入れて検討してきており、公民館もどういう施設を作るかを検討してからその中身を考えるというふうに持って行きたい。私自身も高齢化していることもあり、町長の言う5年は長いので、もっと早くこういうものを作ろうということを明示して進めて欲しい。

中川委員長

○歴史資料館は棚上げになっているということですね。

委員

○歴史資料館単独では財政的にも難しいので、公民館と一体となって歴史資料館の役割も持つという広く利用できる複合施設として考えても良いのではないか。

委員

○この委員会は当初の思いと少し違った方向に行っているのではないかと思う。学識経験者の話は、新しい知識を教えていただき非常に参考になるものの町民の心に響いてこない。広陵町のことを地に足を着けて考えているのは私たち広陵町民だ。公民館建替の計画が成るようするにはどうしたらいいか、成る方向に向かうにはどうしたらいいかをお教えいただきたい。何かを我慢すれば実現するのかをお教えいただきたい。どのようにしたら地に足の着いた文化活動ができるか、町民が出会える場を創れるのか、お話しをお聞かせいただきたい。

○公民館を建て替えるには、どんな土地が、費用が必要かをおおよそでいいから教えてほしい。将来の人口も考慮しないといけないので、将来世代に負担を残さないためにも、行政のプロとして国や県のあらゆる補助金も考慮したシミュレーションして検討を進めていただきたい。

委員

○資料を配布。

○公民館で尺八の文化活動を行っている。公民館活動発表会は当初から30数回参加してきている。その中で発表会は参加者が比較的多いが、展示会は内輪だけのようで参加者が少ない。

○文化祭の参加者は約1,200人だが、開催費用は300万円以上で一人あ

委員	<p>たり約 2,500 円かかっており、コストパフォーマンスがいいとは言えない。それではいけないということで、育成クラブの方と図って体験型の事業をする事となった。</p> <p>○公民館はプラットフォームであって、そこで学んだことをいろいろな人に発信していくということを学んだが、活動の中でそのとおりと感じている。</p> <p>○小学校への出前教室では、お琴と連携して「春の海」などを演奏している。私たちは頑張っている。</p> <p>○今の公民館の建物では、音が隣の部屋に漏れたり、バリアフリーになっていなかったりして、不便をきたしている。</p> <p>○広陵町では、文化祭、体育祭、かぐや姫まつりがあり、文化祭は盛り上がりにくいのが、地道に活動していれば盛り上がってくると思う。ただ、5年経ったら年齢が上がるため、やり方を変えていかなければならないだろう。いずれにせよ、町民の文化活動は頑張っていることを認識して欲しい。</p>
中川委員長	<p>○これまでの 4 人の方の発言からでもこの表（資料 1）の空欄を埋められると思う。公民館のハードについても、高齢化対応（エレベーター）が必要など、意見が出た。</p> <p>○歴史資料館については、基本方針に入れるべきかどうかだが。</p>
委員	<p>○歴史資料館については、答申も出され基本設計もできている。ただ費用が約 10 億円かかるということで実現には至っていない（国宝級の資料を展示できるという前提）。ただ、広陵町には歴史資料は沢山あり、それを順に展示できるような施設ということであれば複合施設の中にあるということもあるのではないか。</p>
中川委員長	<p>○先ほど副町長として発言いただいた中に、複合施設であること、災害時に避難施設としての機能も果たすこと、歴史資料館の機能も包括したいという事があったが、これらを基本方針に盛り込むことで了解いただきたい。確認された。</p> <p>○委員から、建替にはどのくらい費用がかかるのか教えてほしいと発言があった。これには、現地建替、代替地で建設等さまざまな選択肢があり、それによってはコストも大きく変わるが、とりあえず用地は除いて上物だけの費用を考えることにしたい。複合型の施設となればどのくらいの規模になるか、内容と機能というソフトが決まらなるとハードの外形すら決まらないことをご理解いただきたい。町長の答弁もその趣旨だと思う。</p>
委員	<p>○早く建替の方向を決めて行って欲しい。</p>
中川委員長	<p>○だから、基本方向を早く定めないといけないということだ。どんなハ</p>

	<p>ードにするかは、どんなソフトを構想するか、がないと決まらない</p>
事務局	<p>○総務省の公共施設総合管理計画によれば、RC 構造で単価が㎡当たり約 40 万円、公民館の延べ床面積を 2,000 ㎡とすると総額約 8 億かかることになる。仮にホールを追加すればそれ相応のコストとなる。標準的な公民館としての最低の費用という理解である。</p>
委員	<p>○王寺町の防災コミュニティセンター（いずみスクエア）は施設だけで約 18 億円かかっている（総延床面積 4,208 ㎡）。</p>
事務局	<p>○参考までに、広陵東小学校は校舎だけで約 20 億円かかっている。</p>
中川委員長	<p>○音響・照明設備のある舞台は入っていない。かぐや姫ホールは 404 席の中ホールということだが、このクラスを整備すれば、単価について今はわからないが、相当なコストがかかるものと考えられる。付帯設備に大きな費用がかかるということだ。</p>
委員	<p>○オールマイティなホールを作らないでもいいのではないか。</p>
委員	<p>○これまでの議論の中で基本的な方向は、参考資料 3「生涯学習・公民館のあり方」にまとめられていると思う。この方向をふまえた複合施設を考えるべきで、複合施設を考えると費用が難しくなるとなれば問題ではないか。</p> <p>○この委員会は公民館建替に当たって、広陵町の文化芸術の方向を明らかにして、文化芸術の花を咲かせていくに当たっての公民館のあるべき姿、ハード面を検討すべき。</p> <p>○ホールについては、合唱をやって来た経験から 400 席のホールは大きすぎて、他団体と合同でやったとしても 200 人から 300 人が現実的なところだと思う。</p> <p>○中規模のホールでは金額が相当高くなることに驚いたが、ソフト面を掘り下げ、適切な水準がどのくらいかを検討する必要がある。</p>
中川委員長	<p>○現状の中ホールでも大きすぎ、利用者数に見合った規模を想定する。すなわち小ホールでもいいのではないかと言う意見だと思う。付帯施設・設備、ホールについては別として、公民館自体の躯体としては約 8 億円から 10 億円かかるという理解でよろしいか。</p>
委員	<p>○10 億というのは、歴史資料館も含めての費用か。</p>
事務局	<p>○公民館の面積（2,000 ㎡と想定すれば）に、歴史資料館部分の面積分を加えて単価をかければ大体の費用が出る。</p>

事務局	<p>○今の議論で出ている金額は、建設費用だけであって、本当は施設のライフサイクル・コストを考えないといけない。施設の費用はよく氷山にたとえられるが、水上に出ている2割が建設費で、水中にある8割がランニングコストと除却コスト等になると言われる。このトータルな金額が負担の全体であることも留意する必要がある。</p>
中川委員長	<p>○イニシャルコストだけでなく、ランニングコストを含めたライフサイクルコストを考える必要があるということだ。</p> <p>○委員の言われたことは、複合施設を考える時には、歴史資料館部分の面積も含めて考えて欲しいということだと理解した。</p> <p>○どんな事業をするために、どのような施設が必要かという構想が固まってくれば、面積や費用、財源、設計の問題に進んでいくことになる。</p> <p>○参考資料3がヒントになるという声もあるので、それをご覧になってご意見を賜りたい。</p>
委員	<p>○スピード感を持って検討を進めて欲しいという意見はわかるが、先のこと気がなる。</p> <p>○要求課題だけでなく必要課題に目を向けていく必要があるのではないか。(公民館が)欲しいとか必要だとかの判断だけではないと思う。</p> <p>○横の連携や、指導者の学習・研修、公民館審議会がないとか、後継者・担い手不足の問題とか、いろいろあるが、これから最も重要になってくるのは指導者のコンプライアンスの問題ではないか。</p> <p>○税を使う以上、若い世代、子どもたちの世代の負担になってはいけない、足かせになってはいけないというのが第一の望みだ。</p> <p>○横の連携は大切だと思うので、文化祭などを横の連携のきっかけ作りに使ってもらえればいいのかと思う。</p> <p>○費用に関しても、町だけの負担でやるのか、どこからかの補助金等を利用するのか、教えてほしい。</p>
委員	<p>○文化祭参加者の人数が増えているのはわかるし、若い世代にもっと知ってもらえる機会を増やして欲しい。</p> <p>○さわやかホールで子育て世代対象のイベントがあり、小さい子どもから小学生まで親を含めてたくさん集まる。そのような時に、文化の体験をする場があると、いろいろな文化活動があることもわかる。体験を見て親がやりたいと思ったり、子どもにやらせたいなと思ったりする事もあるのではないかと。そういう機会を設けるといい。</p> <p>○そのような場・機会を作る人(リーダー、コーディネーター)が必要だし、そういう人を育成していくことも大切</p> <p>○この先人口が増えない状況の中で、大きなものを作ってしまうと、若い人の負担が増えるのも心配</p>
委員	<p>○私も育成クラブで体験型活動を行っている。</p>

委員

○若い世代、子どもたち孫たちの後続の世代に負担をかけたくないという考えはよくわかる。問題は、文化芸術活動がどう、まちづくり、ひとづくりにつながっていくかということだ。そこをふまえた公民館の役割をきちんと押さえておかなければいけないし、自信を持ってこの検討委員会でも議論をしていかなければいけない。逆に言うと、子どもたちも誇れるような施設、その中でお父さんお母さん、僕たちがしっかり活動していけるような公民館でなければならないと思う。

○公民館はいろいろな活動をしている。参考資料2にあるように、教室や講座、その中には子ども向けのものもあり、たくさん発信している。数えてみると、教室が13、講座が8、講習会が2、子ども教室27、その他2もやっており、年間約700名が参加している。これに加えて育成クラブ・文化協会の活動、一番大きなイベントである文化祭がある。文化祭の中身は、育成クラブを中心とする公民館発表会、展示会、体験型事業が三つの柱となっている。これらは、他の自治体には少ない広陵町の大きな財産だ。

○内訳を紹介すると、文化展覧会では3日間で700点近くの展示がなされており、出展者が約450人。このように文化の花を咲かせる活動が公民館育成クラブを通じて広がっていることを、確信を持ってもいいのではないか。

○民間では、ある喫茶店が音楽の発表・交流拠点となっていたり、ラジオの発信基地となっていたりする例がある。こういう貴重かつ重要な取組がなされていることに留意する必要がある。

○公民館を中心とした文化活動、交流、文化のストックと民間で多様・多彩に行われている活動とを交流し、ネットワークを組んでいくことも考えられるのではないか。

○もう一点、社会福祉協議会の関係でもいろいろと頑張っている。図書館のお話し会（読み聞かせボランティア）も複数ある。子育て関係のグループが12、高齢者対象のボランティアサークルが10団体、その他のサークル9団体が、社会福祉協議会を通して町民とつながり活動している。このような公民館関連以外のさまざまな活動も把握し、つないでいけば、広陵町のまちづくりに大きく寄与すると思う。

○参加型体験は公民館と育成クラブとの共催で毎年開催しているが、日頃育成クラブの活動に参加されていない方が、子どもたちを含めて文字どおり参加体験をすることによって、活動を知ったり担い手として加わったりするきっかけをつくっている。また、ボランティアで芋掘りなどの活動を支援して下さる方もある。これらのつながりは町内に多くあり、それらを整理して計画に取り入れていくことも考えられる。

大藪副委員長

○公民館審議運営委員として研修会等に参加した経験から、広陵町の文化活動は先ほどから言われているように相当進んでいる。それをうまくPRできていないところは、各団体の能力不足かも知れない。だから、あまり悲観することはないと思う。現状をいかに発展させていくかが問題

大藪副委員長	<p>だろう。</p> <p>○人が集まりやすいということでは、体験型が重要だろう。何か人が集まる場があって、そこでついでに体験型が行われていることによって、活動の周知にも役立つのではないか。たとえば、靴下祭などでも関西中から関係者が集まっていると聞く。そういう場を活用することも考えられるのではないか。</p> <p>○子々孫々に負担を残さないようにするということだが、一方で将来の人口減を止めるために広陵町がすばらしい町であることを認識してもらうことが大切だ。それには広陵町では文化芸術活動がこんなに盛んだとか、立派な文化施設があるとかが有効で、これらは相反する事かも知れないが。</p> <p>○身の丈に合わない施設は要らないが、住みよいまちにしていくために適切な公民館があって、そこでの活動が子どもたちを含めてまちを元気にしていくという流れができれば、負担を残すことにはならないのではないか。</p> <p>○町の職員は題目や計画を作ることは堪能だがそれを実現していくことに関してはまだまだだ。</p>
中川委員長	<p>○リーダー、指導者の勉強会、研修の機会が必要なのではないか、団体の横の連携が必要なのではないか、についてどう考えるのか。</p> <p>○いろいろなもの（団体、活動、イベント、官民、地域、世代間等）をつないでいく仕事・仕組みが重要であること。言い換えればコーディネーターの仕事だ。公民館においても、社会教育・生涯学習においても、あるいは市民側においても、そのような役割を担う人を育て、掘り起こす必要がある。そういう育成・研修プログラムが町にはあるか。</p>
事務局	<p>○広陵町では、そういった研修プログラムは持っていない。他で行われている研修会等には参加しているが。</p> <p>○社会教育委員にいろいろな活動をしてもらった。たとえば、三世代をつなぐパークゴルフ大会をやってもらい好評だった。社会教育委員の欠員は年度替わりに補充していきたい。</p>
中川委員長	<p>○行政の担当職員は、アートマネジメント研修等に参加しているのか。</p>
事務局	<p>○行っていない。今後適切な研修があれば参加させたいと思っている。</p>
中川委員長	<p>○行政職員、公民館等で文化芸術に関わる職員は、公益財団法人全国公立文化施設協会が実施している全国劇場・音楽堂等アートマネジメント研修会が全国あるいは地方ブロックごとに開催されているので、問い合わせで適切なものがあれば参加されてはどうか。学習・研修についても基本方針に盛り込むべきだろう。</p>

中川委員長

○アートマネジャーを育成するのは全国での流れになっているが、いきなり市民側にそれを求めるのは困難なので、まずは行政側が育成しないと進まない。過去には親子劇場などがあってその役割を一部果たしてきたこともあるが、現代ではコーディネーターの役割を担っているアートNPOもあり、そのような団体の力を借り、たとえば文化活動と子どもたちをつなぐことも考えられる。

事務局

○ご提案ありがとうございます。積極的にそういった参加・取組をしていきたい。

中川委員長

○基本方針にアートマネジャーを育てようなど、つなぐ機能が大切であることを盛り込みたい。行政ばかりでなく、町民側にもそういう人が出てくることを期待したい。

○文化芸術と子どもをつなぐことを考える場合、民間どうしの話し合いはもちろんだが、たとえば幼児の定期健康診断等の集まる機会を活用して、ブックスタートやアートスタート活動を仕掛けるなど行政ができることは多い。健診会場で歌・音楽を聞かせたり、ちょっとした絵や工作に取り組みせたり、いろいろ可能性はある。この時文化協会や育成クラブ等町民の文化活動団体に協力してもらってはどうか。すでに多くの自治体でこういった子どもとアートをつなぐ、お母さん方とアートをつなぐ事業をやっている。こういう活動も公民館の主催事業となる可能性がある。

○公民館主催事業と育成クラブ等の民間の活動との間に橋が架かっていない、連携が取れていないとの指摘があった。これも、先ほど触れたつなぐ機能、コーディネートする機能が働くことが望まれるし、もうひとつ大切な事は、公民館事業として、いわゆる要求課題ばかりをやっているでもいいのか、むしろ必要課題について取り組まないといけないのではという問いかけだろう。要求課題については、町民の活動に任せてもいいのではないのか。必要課題こそ公民館が税金を使って取り組むべき事ではないのか。その整理が必要だ。

○公民館主催事業に関してのマーケティング調査をしているのか。町民が何に困っているのか、何を必要としているのか、今の社会で求められていることは何か、地域課題は何か、ということ掘り起こして、学びの機会を提供すること。たとえば、工場で働いている外国人との交流のために外国語を学んだりコミュニケーションスキルを修得したりするという課題があればサーチし、必要課題として応えていくことが公民館本来の役割ではないか。余暇活動型の事業に傾斜している現状に危惧を持つ。そこの洗い直し、整理が必要だ。町民が要求課題をどんどんおやりになることは結構だ。

○町民のエネルギーは高く、もっと共催事業をやっていこうという発言もあった。町民のエネルギー、潜在しているものも含めて公民館運営に反映させていくべきで、共催、協働は十分展開可能だと思う。

中川委員長	<p>○子どもたちの参加を進めることによって、施設建設のコストを将来につけを回す事にはならないのでは、という発言は卓見だと思う。その意味で、子どもたちが参加しやすい、子どもたちを主役とした事業を総力あげて開発すべきではないか。</p> <p>○大多数の租税負担者である町民の存在と次の世代のことを常に意識しながら検討を進めていきたい。</p>
中川委員長	<p>○ここから第 2 ラウンドに入る。言い足りなかった方の発言を求めます。</p>
委員	<p>○近江八幡市（滋賀県）の「近江八幡市文化振興基本計画」（平成 28 年 3 月）を拝見して、広陵町の二倍程度の人口のまちだが、若い人とのつながりをどう作っていくか、や人材育成が大きな課題となっていることがわかり、同じような悩みを持っているという印象を持った。</p> <p>○広陵町にも芽はいっぱいあるので、それらを具体的につなぐことが大切なので、育成クラブを含めて町民の意見を聞く機会を持つことで、さらに豊かなものができる」と申し上げた。コロナ禍で難しいとは思いますが、自信を持って一歩踏み出すことが必要ではないか。</p> <p>○参考資料 3 にある「自発的に学ぶという営みを、社会のあり方を考え豊かな生活文化をつくることにつなげていく視点が求められる。」という視点が我々の中でも若干弱いので、要求課題が満たされるだけでなく、こういう視点で文化を考えていきたいし、その拠点である公民館に何が足りないのか、何が必要なのかを論議の中で深めていきたい。</p>
委員	<p>○孫子の代まで借金を残すことはどうかという意見があるが、それは大切な事だが、むしろ米百俵の精神のように孫子の代まで人材を残すことが大事ではないか。借金を過剰に恐れて何もしないと、何も残らない。しっかりと人材を育成すればストックができる。公民館も一定努力していると思うが、もっと積極的にやってほしい。</p> <p>○体験型は親子で、ふだんできないお茶とかを体験できている。参加の呼びかけも我々が学校を回ったりしてやっていて、参加者も少しずつ増えてきている。こういう貴重な体験ができる場を充実して欲しい。</p>
中川委員長	<p>○今おっしゃったことは、人材の再生産の大切さということとで、これは共通認識されていると思う。文化施設はいわば次世代生産工場なのだ。こういう視点で見れば、後世に負担を残すということに対して新たな視点ができるということ。</p> <p>○そのためには、公民館がもっと人材を育成していくという政策コンセプトを明確にして事業展開をしていくべきだ、という意見である。</p>

大藪副委員長	<p>○コーディネーターということだが、文化祭が運営できているのも、委員が多面的に関わり、担ってこられた実績があるからだと思う。</p> <p>○税金を納める人が広陵町内にいてももらわないと困る。広陵町に住み続けてもらうためには、総合的に広陵町の魅力を高めていくことが大切だ。</p>
中川委員長	<p>○本日配布した当日配布参考資料に書かれている「明石市立複合型交流拠点ウィズあかし」の例を説明したい。</p> <p>○これは、明石市生涯学習センター、あかし男女共同参画センター、あかし市民活動支援センターで構成されている複合施設だ。</p> <p>○この施設の機能として、サポートを受ける（情報収集する、イベント・講座に参加する、相談・コーディネートを受ける、グループ登録し登録団体としてのサポートを受ける、活動情報を発信する、講師を探す等がここの事務局を通してできる。特徴としては、上記3施設の複合で運営されており、複合型イベント・講座の実施等、相互に協力・連携し合う体制がある（3施設とも同じ指定管理者）。また、「まちナビ AKASHI」といって、登録団体や28の小学校区のまちづくり協議会情報、明石市内で開催される様々なイベント情報を一覧できるようにし、つながるきっかけを作っている。</p> <p>○生涯学習センターでは、「みんなのまなびや」として、自ら学んできた知識や経験を活かして、活動したい人を対象に、男女共同参画・生涯学習・市民活動に関する企画を募集し、講師デビューを支援することをやっている。もちろん、楽器演奏や芸術の学習、生活文化分野も含まれている。市民がやりたいことがあればここに応募して、先生になることができる。</p> <p>○ウィズあかしは、かなり大規模な施設なので、広陵町にはどこまで適応できるかわからないが、要はコーディネートする機能が事務局にきちんとあるということだ。</p>
委員	<p>○何でも役場に押し付けると仕事の負担が大きくなりすぎないか。人も限られているようなので。</p>
事務局	<p>○確かに役場職員の数も限られており、行政課題もどんどん増えるばかりで、仕事が厳しくなっているという現状がある。</p> <p>○職員数は同規模の自治体並みになってきているが多くはない。職員数210人だが、保育所・幼稚園関係を除けば160人程度しかいない。</p> <p>○だから、政策課題をやっていくためには、他の部局との連携や、町民との協働を避けて通ることはできない。その意味でも、役場の職員にはコーディネートする能力が求められている。文化芸術の分野だけでなく、福祉、健康等あらゆる分野でコーディネート力が求められている。</p> <p>○協働のコーディネート力も大切だ。</p>

中川委員長	<p>○公民館当局と利用する町民という二項対立型ではなく、互いに助け合い、協力・連携、協働して活動、事業を行っていかなければならない。先ほど話題になっていたアートスタート事業、学校訪問（アウトリーチ活動）なども、協働事業がやりやすい例だろう。何でも行政が直営でやらなければならないわけではない。基本指針には、育成クラブ等を含め町民が行政と協働する体制をつくっていくことを盛り込みたい。町民も受益者だけでなく、主体的な運営者、経営者の視点を持つことが求められているのだ。</p> <p>○新しい公民館は、参画と協働の実践の場となっていかなければならない。参画と協働は、今策定中の広陵町自治基本条例にも位置づけられているのだし。</p> <p>○公民館事務局も参画と協働をコーディネートする力を持って欲しい。運営・企画にももっと町民が参加していく必要がある。それを受け入れる仕組みを整える必要があると思う。ウィズあかしは、指定管理者として一般財団が運営しているが、市民参加、市民との協働を基本に運営、事業企画している。私が関わっている山形県酒田市では、文化ホールの運営も市民参加・参画型でやっており、年間4,000万円ほどの事業も市民実行委員会とともに実行している。</p>
事務局	<p>○今話された参画と協働については、基本方針にぜひ盛り込んで欲しい。</p> <p>○町や教育委員会はPRが下手なこともあるが、現在、コミュニティスクールということで、学校の授業等に地域の方の力をお借りしている実績があり、成果もあがっている。学校で子どもたちが文化芸術に触れる機会を持つことに協力していただいている。</p> <p>○信頼関係の中で、さまざまな施策、事業を横から串刺しにするように、コーディネート、つないでいく必要があると認識している。</p>
委員	<p>○公民館運営審議会は早く作って欲しい。</p>
中川委員長	<p>○作る方針と見た。</p> <p>○公民館の既成の事業をスクラップ&ビルドする必要がある。企画がニーズに合っていないのかも知れないし、PRが不十分なのかも知れない。ただし、声の小さな人の抱えている課題を掘り起こすなど、必要課題に対応する事業は必要だ。</p> <p>○公民館事業の組み替えも提案したい。</p>
委員	<p>○行政は本当にPRが下手。「この事業で何をしたいのか」を明確に訴えていくべきだ。その上でこそ費用対効果などの評価も可能となる。</p>
中川委員長	<p>○公民館全体の運営についてもそうだが、個別事業（自主事業）の評価もしていかななくてはならない。それによって事業内容の組み替えも可能</p>

中川委員長	<p>となる。必要課題対応に資源を集中し、要求課題的な事業については、育成クラブ等が既に担っているものもあるだろう。そこに任せるのも一法だ。</p> <p>○今年度策定する基本方針に基づき、来年度以降作られる基本計画には、計画倒れにならないように、数値目標とそれに基づく効果測定を入れる必要がある。義務づけの厳しい計画としたい。</p>
委員	<p>○当初のスケジュールでは、今年（2021年）2月に一定の報告（公民館建て替えの基本方針）を策定することになっているが、議会への報告が大変重要だと思う。2017年、公民館建て替え要望署名の提出・町議会への請願署名が全会一致可決され、また、2019年12月議会で本検討委員会の表題が「広陵町の文化芸術の振興及び公民館のあり方検討委員会」から「広陵町の公民館建て替え及び文化芸術の振興のあり方検討委員会」に修正されたこともあり、議会の関心は非常に高いと思われる。したがって、議会報告の日程をスケジュール骨格の図にはめ込んでいただきたい。</p> <p>○また、参考資料4 スケジュール骨格の図の最後に（最下部右側）、「（仮称）文化振興条例」が入っているが、検討委員会委員を引き受けるに当たっての説明に条例策定は入っていなかったし、これまで念頭になかった。本委員会の任務には、条例の検討は入っていないように思う。したがって、（仮称）文化振興条例は、本委員会ではなく、条例を審議する別の委員会なりを設置して検討していくべきではないか。</p>
事務局	<p>○参考資料4にもとづき説明する。本日の第5回委員会では、広陵町の文化施設（公民館等）のあり方をテーマにその理念・役割、必要な人材、ソフト事業の意見交換をいただき、基本方向に盛り込む項目がピックアップされた。第6回委員会は3月中旬頃を目途に、文化芸術振興の方向（ビジョン）検討を、本日の議論結果も盛り込んだビジョン案（たたき台）をもとに意見交換をいただき成案にする予定。議論の内容によっては多少変わる事もありますが、事務局としては、ビジョンに基づいた文化芸術振興基本計画の策定に向けて進めていきたい。</p> <p>○また、それを踏まえ、将来的には文化振興条例の策定や公民館建替に進んでいきたいと考えている。</p>
委員	<p>○議会説明の時期と、文化振興条例が本委員会の範疇外ではないかということについてまだ説明がないが。</p>
事務局	<p>○議会説明の時期だが、第6回委員会での議論をふまえて、基本方向が一定まとまった段階と考えており、具体的には本年4月ないし5月頃と考えている。</p> <p>○（仮称）文化振興条例だが、本委員会設置条例にはそのことは何も触れておらず、役割としては振興基本計画の策定としている。将来的な方</p>

	向性としては、そういった条例は必要になってくると考えており、その時には本委員会とは別に審議する組織を設置する必要があると考えている。
4 まとめ	
中川委員長	<p>○今日は活発な議論をいただき、ありがとうございました。私自身ハッとするようなご意見もありました。</p> <p>○資料1「広陵町の文化芸術振興について」に、今日のご意見を埋め込んでいき、これが整理され基本方針（ビジョン）になっていくと考えてほしい。ビジョンは文化芸術振興の方向を示すもので、計画や事業自体ではありませんが、計画の骨組みを構成する基礎設計とお考えください。</p> <p>○基本方向（ビジョン）ができると、次いで基本計画の検討に入り、同時並行で公民館建替の内容が決まっていく。</p>
5 閉会	
大藪副委員長	<p>○委員も予め考えて置く必要があるので、次回はこういう課題を検討していくというスケジュールを明確に示して欲しい。</p> <p>○ありがとうございました。</p>
6 事務連絡	
事務局	○次回第6回委員会のスケジュールについては、委員長、副委員長と相談の上決定し、追って連絡する。事務局としては、概ね3月頃と考えている。

以上